

第3回 熊本市自治推進委員会会議録概要

日 時：平成26年10月16日（木） 午後3時～5時

会 場：本庁4階モニター

出席者：明石委員長、田中副委員長、緒方委員、越地委員、篠塚委員、毎熊委員
毛利委員、安永委員、遊佐委員、吉村委員

事務局	<p>1 開 会</p> <p>ただ今から、第3回「熊本市自治推進委員会」を開会いたします。</p> <p>明石委員長より、少し遅れますとのご連絡がっております。</p> <p>本日の委員会より、具体的な事例を通して情報共有、参画、協働の検証を進めていく予定です。本日は、平成25年度より各区で行われています「まちづくり推進事業」の取り組みを検証していただきます。</p> <p>また、委員会は午後5時までの2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>続いて、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○式次第 ○第2回 熊本市自治推進委員会会議録概要 資料1 ○市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票 資料2 <ul style="list-style-type: none"> ※実績調査票が中央・東・西・南・北の順に綴っており、それぞれに別紙資料が添付されています。 ○自治推進委員会の検証スケジュール 資料3 ○検証チェックシート <ul style="list-style-type: none"> ※各区の取組み毎に5枚準備しています。検証の際のメモ用紙としてご活用ください。（委員のみ配布） ○検証評価シート <ul style="list-style-type: none"> ※各区の取組み毎に5枚準備しています。検証チェックシートに基づいてそれぞれ取組みについて評価していただき、後日、ご提出していただきます。（委員のみ配布） ●各区参加者名簿及び検証タイムスケジュール <ul style="list-style-type: none"> ※当日資料として、机上に配布 ●中央区、東区より当日資料の配布 <p>それでは、田中副委員長よろしくお願いたします。</p>
田中副委員長	<p>こんにちは。それでは、委員会をはじめさせていただきます。</p> <p>本日はいつもの自治推進委員会より物々しい雰囲気になっています。事業の検証は、評価する側もされる側も嫌な感じがするものです。本日、検証させていただく5区が取り組まれた事例は、私も幾つか関わらせていただいておりますけれども、すごく評判のよい事例ですし、各区ともに自信を持っておられる事例と思</p>

	<p>ます。検証というよりも、楽しい成果発表の場と思っていただければいいと思います。私たち委員も知りたいことがたくさんありますので、できるだけ多くやりとりができるように進めていけたらと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、審議に入ります前に、まず会議の成立について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>ご報告させていただきます。本日は、明石委員長も遅れてご参加されますので、委員10名全員にご出席をいただいております。</p> <p>従いまして、熊本市自治推進委員会規則第5条第2項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。</p>
田中副委員長	<p>2 報告事項</p> <p>ありがとうございました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、第2回委員会の議事録についてです。</p> <p>それでは、前回の委員会の議事録について、事務局からご報告をお願いします。</p>
事務局	<p>※資料1「会議録概要」にて事務局より確認。委員会前に事前送付し各委員において確認済み、委員会終了後にホームページへ公開予定。</p>
田中副委員長	<p>3 議事【事例検証】</p> <p>それでは、早速、事例検証に進みたいと思います。</p> <p>確認ですが、私たち委員は検証チェックシートに基づいて検証をしていけばよいということですね。また、各区の皆様も検証の視点については、ご理解いただいているということですね。</p> <p>とういことですので、余り端々の事についてご説明いただくのではなく、何を目的にどういう情報発信をされて、どのような協働が出来たのかについて、私たちは知りたいので、それぞれ各区の特色のある取組みの部分の部分を強調してご説明いただければと思います。</p> <p>それでは、本日の事例検証の流れについて、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、「各区参加者名簿」をご覧ください。本日、ご出席いただいております、各区の説明者の名簿です。説明者の紹介につきましては、参加者名簿に変えさせていただきます。</p> <p>本日、検証していただく事例は、前回の会議で委員の皆様にご確認いただきました、中央区の「校区かるた作成」、東区の「地域課題検討会」、西区の「華ある歴史探訪ウォーキング」、南区の「南区シンボルマーク作成」、北区の「いきいき交流スポーツ大会」の5つの取組みです。北区につきましては、第2回の委員会で予定していました、「北区農産物の市」より変更させていただいておりますのでご了承くださいたいと思います。</p> <p>具体的な進行方法としましては、裏面の「検証タイムスケジュール」をご覧ください。説明は中央区の取組みから、東西南北の順番に行います。まず、資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組み実績表」と各区よりご用意いただきました添付資料にて、各区より5分～10分程度ご説明をしていただきます。そ</p>

	<p>の後、それぞれの取組みについて、個別のヒアリングの時間を10分間取ります。これを5回繰り返します。</p> <p>5区全ての個別ヒアリングが終了した後、20分程度の時間で総括的なヒアリングや各区職員との意見交換を行っていただきます。情報共有、参画、協働についての良い点、工夫を要する点、取組への提案や、取組み事業への感想など自由にご意見をいただいて結構です。</p> <p>併せて、各委員におかれましてはお手元にあります、「検証チェックシート」をご活用いただきながら、各取組みについて検証を行っていただきます。また、後日、「検証評価シート」についてもご提出いただきます。なお、評価シート中の「評価基準」については、特に、委員間で基準を統一することはしませんので、委員個々の基準により判断していただければと思います。以上でございます。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>たいへん物々しいですが、本日の取組みは基本的に3以上の点数をつけることができる取組みであると思っていますので、楽しく発表いただければと思います。説明時間の管理はどうしますか。</p>
事務局	<p>事務局で管理いたします。</p> <p>基本的には、説明は短く、委員との質問や意見交換の時間を長くしていきたいと考えています。</p>
越地委員	<p>一つ確認をさせてください。</p> <p>各区で色々な事業をやっているなかで、今回、一つだけ持ってこられたのは、いわば各区の中でも、自信のある事例、優良事例なのでしょうか。或いは、課題の多い事例をあえて持ってこられたのでしょうか。その辺りは分かっていた方が、検証がやりやすいです。</p> <p>今日の検証のテーマが市民参画の為の情報共有となっていますので、このテーマに即して、一番すばらしい事例、進んでいる事例を持ってきましたという区は手を挙げてください。</p>
田中副委員長	<p>逆に課題が多い事例であり、委員会に相談したいということであれば、私たちも一緒に考えて参ります。</p>
西区	<p>河内まちづくり交流室の守田と申します。</p> <p>西区の場合はですね、西区総務企画課より本日ご説明します取組みについて発表をお願いしますということでお願いがありました。</p> <p>優良事例として判断されて、選ばれたのかどうかは分かりません。</p>
越地委員	<p>逆に、課題の多い取組みを検証するという勉強方法もあります。むしろ、そちらの方が勉強になることが多いと思います。</p> <p>優良事例なのか課題の多い事例なのか、検証を行うにあたっては、全体としてイメージを持っておきたいと思います。西区を含めて、優良事例であるということで検証をしたいと思います。</p> <p>あと一つ、5分から10分の説明に対して、この資料はとても詳しいものとなっています。「それぞれの事業は何ぞや。」というところから理解を始めようとする</p>

	<p>ると、おそらくそれだけで終わってしまうと思います。</p> <p>今回の検証で求められているものは、市民参画の為の情報共有が上手くいっているかどうかですので、検証の視点を意識した説明を行っていただければ非常にわかり易いと思います。</p> <p>例えば、情報発信の時期が適切かということについて、説明を聞いた上で判断することは、非常に困難な作業であると予測しています。その辺りの事は、各区の説明者が課題に即した上で、ご説明いただければ、スムーズに検証ができるのではないかと考えていますので、よろしくお願いたします。</p> <p>全体像が全く分からないということは一方で問題ですが、事業紹介だけで終わってしまうと検証ができないということになります。逆に、こういうことについていつも疑問に思っているということがあれば、是非投げ掛けていただければと思います。私たち、委員からの質問に答えるだけのやり取りではなくて、議会でも主流となってきている反問権のような、双方向でやり取りをするようなことができれば、非常に充実した会になるとと思います。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>自治推進委員会、独特の進め方かもしれませんが、是非、こういう風に進めていければと思います。</p> <p>今回の事例は優良事例であるという認識で進めさせていただきます。ただし、この会の主旨は、取組みの良し悪しを判断するものではなくて、これからの熊本市の情報共有だとか参画、協働がさらに進むようにしていく為に考えることですので、建設的に分からないことは分からないとか、普段から疑問を持っているなど答えていただければ、委員会としても一緒に考え答えていきたいと思っています。</p> <p>それでは、中央区の「校区かるた作成」の取組について、中央区まちづくり推進課より説明をお願いします。</p>
中央区	<p>※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて中央区まちづくり推進課より説明。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございました。今の説明で13分から14分の長さです。1区あたり20分の制限時間は守っていきたくと思いますので、質疑応答の時間は6分程度にさせていただきます。</p> <p>説明を始めると時間は以外と早く過ぎていくものです。これから説明される外の区の皆様は、中央区を教訓としてポイントを絞ってご説明いただければと思います。</p> <p>それでは質疑応答に入りますが、質問も出来るだけ短くしていただいお尋ねいただければと思います。</p>
遊佐委員	<p>お話をうかがうなかで、地域の皆様に浸透させていく、ご苦労が見えてところですが、基本的なことで、最終的には中央区のカルタを作成ということですが、いつごろまでに作成することを目安としていらっしゃるのでしょうか。</p>
中央区	<p>昨年の予算組をしたときは、平成26年度に7校区、平成27年度に7校区、平成28年に5校区ということで、3～4カ年を計画していました。</p>

	<p>しかし、カルタ作成の手続きとして、それなりの時間がかかっていることもあり、今年、出来上がる見込みは出水校区だけです。計画自体を見直す必要があると思っています。4年後、或いは5年後の完成になるのではないのでしょうか。</p>
遊佐委員	<p>今回、ご紹介いただいた出水校区の方々の率先した動きは分かったのですが、中央区19校区の内、他の校区の動きはどのようなのでしょうか。</p>
中央区	<p>今までは、たいへんお忙しい校区の自治会などの代表者の方々に周知してきました。校区カルタ作成には、出来るだけ幅広く多くの方々に関わっていただきたいという考えです。7月には中央区の校長会があったので、そこで、カルタ作成のご紹介をさせていただきました。10月には青少年健全育成会の中央区の会議がありますので、そこでも紹介させていただく予定です。このようにして、子どもや子育て世代の親御さん達にも参加していただけるよう呼び掛けをしているところです。</p>
田中副委員長	<p>まちづくり推進課の方がカルタ作成の取組みに従事されていることは分かりますが、保健子ども課の職員の方が、何故この取組みに関わることになったのでしょうか。また、取組みに関わってみて感想などを教えていただければと思います。</p>
中央区	<p>保健子ども課は保健師が所属している課です。熊本市は校区毎に一人担当保健師がおりまして、私が出水校区の担当保健師でした。最初の説明にもありましたとおり、昨年度、「子どもネットワーク」という組織を主任児童員の皆様と一緒に立ち上げまして、子どもネットワークの中で何をやっていこうかと思案するなかで、丁度、このカルタづくりの話が校区の自治協議会の会長からご紹介されました。カルタという完成物も出来上がりますし、達成感も味わえる。さらには、校区カルタ作成をツールとして、いろんな地域の方々と話、知り合うことでネットワークも広がり、上手く機能させていくことができるのではないかとということで、参加をさせていただくことにしました。</p> <p>政令指定都市に移行しまして、校区単位の健康まちづくりという取組みを各校区で頑張っており、取り組んでいるところですが、「子どもネットワーク」もこの取組みを進めるために設置したものですので、カルタづくりにも協力させていただいているところです。</p> <p>感想としましては、校区担当保健師としては、とても楽しく、まちづくり推進課の職員さんと一緒に活動が出来ます。このカルタ作成という取組みが無かったなら、おそらくこのように協力して取り組む機会も無かったのではないかと思います。中央区内の他課との連携という意味では、すごくよい事業であったのではないかと感じています。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が言いたかったことは、正に最後の話で、他課との連携ですね。主管はあくまでもまちづくり推進課かもしれませんが、保健子ども課と協働でやることができました。通常は行政の方はやりにくいと思います。</p> <p>今回であればカルタづくりの情報を持っていた校区の自治協が、何かやることを探していらっしゃる「子どもネットワーク」と結びつき、協働して取り組むこ</p>

	とができた。そうすると、情報の出し方にしても、フェイスブックとラジオなどの媒体を活用して、それぞれの課において協力してカルタの情報が流される。そうすることで、伝わり易い情報、よい情報になっていくのではないかと思います。
毛利委員	私は実際にカルタづくりに取り組んでいる一新校区に住んでいます。このカルタづくりを通して、横の連絡が容易に出来るようになり、子ども保健課など他の課の職員の方と新たな事業展開をすることが出来たりしています。実際に、一新校区では「ぐるっと一新」という取組みがスタートして、10月26日に健康ウォークを始めます。この健康ウォークも、カルタづくりをやっていなかったら出来なかったと思います。それぐらい、カルタづくりの取組みはすばらしいと思っています。カルタづくりの取組みに対して一步を踏み出せていない校区には、できれば私たち取組みを始めている一新校区、或いは出水校区、本庄校区と一緒に、どうして出来ないのか、或いは踏み切れない理由など、私どもも一緒に行って話し合う機会を持てたらいいなという風に感じます。
田中副委員長	<p>ありがとうございます。応援演説のようなコメントをいただきました。確かに大事なことだと思います。出来ている校区と出来ない校区に情報の格差が生まれることは良くないことだと思います。出来たところがその楽しさなどについて、多めに宣伝していただくと情報がより伝わり、取組みへの共感が生まれるのではないかと思います。</p> <p>時間となりましたので、中央区の取組みについては、これで終らせていただきます。その他、多くのご意見があるかと思しますので、検証評価シートに書いていただき、事務局へご提出いただければと思います。</p> <p>それでは、東区の「地域課題検討会」の取組みについて、東区まちづくり推進課より説明をお願いします。</p>
東区	※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて東区まちづくり推進課より説明。
田中副委員長	<p>どうもありがとうございました。簡潔にまとめていただき、15分くらい時間がありますので、質問等していただければと思います。</p> <p>では、地域課題検討会を作られたということが取組みでよろしいでしょうか。参加されている方は地域の18名の方と区役所職員12名の計30名とのことですが、その方々が一般に東区に住んでいる方の情報をどう集めていらっしゃるのかどうか、そのあたりを教えてください。</p>
東区	地域から推薦されたメンバーということで、主に校区自治協議会長を対象にお話をしましたので、校区の中のテーマに特化して取り組んでいらっしゃる方、例えば校区自治協議会の事務局長さんや、場合によっては民生委員さん、自治会の方など、様々な役職の方になります。
田中副委員長	北野さんはそのメンバーとして参加されているのですか。
東区	主催者側なので、検討会の中には入っていませんが、雰囲気はわかります。

田中副 委員長	<p>拝見するところ従来の地域の代表者の集まりという形ですが、例えば若者の声が拾えているのか。従来から言われている情報の広まり方については普通と言いますか、今までは全市的に行われたものが、スケールが小さくなり東区だけで出来るようになったので変わってきたのではないかと予想されますが、その辺りは感じられますか。</p>
東区	<p>検討会を開催するにあたり、区役所の中でどんなことがあっているのかなど報告いただいているところでもあります。例えば、ある町内についてはすべての隣保組に配布し、回覧するところもございますし、わずかではあります、そういった動きもできているというところです。</p>
田中副 委員長	<p>これはコメントですが、なかなか難しいとは思いますが、この地域課題検討会がなかったら上手くいかなかったことを考え、この検討会があったから上手くいっているということを地域の方にアピールする必要があるのではないかと思います。行政の方は検討会を作ったらうまく機能すると考えていると思うのですが、地域の方々からするとそれはわからないことが多いと思います。なかったら不都合なことがあったから、検討会が出来たからこんなことが出来ている。あって当たり前と思っていただくのは、少し違うと思うので、そのあたり、もっと丁寧に説明されるとあってよかったという組織になっていくと思いました。</p> <p>その他の委員の方どうですか。</p>
遊佐 委員	<p>私も東区に住んでいる住人の一員としてお話ししたいと思ったのですが、自治会等に入っていらっしゃる方はトップの方を通していろいろな情報が入ってくると思いますが、集合住宅や新しくできた建物などそういう所に住んでいらっしゃる方は、アンケートの中にもありますが、自治会というものを良く分かっていない。そういう方々に関しても、今現在ごみに対しての情報を的確に伝えるために、何か別なルートなどの形で、そういう方々の耳に入るように動いていらっしゃるのかどうかということをお伺いしたいです。</p>
東区	<p>今回の地域の課題というのが、主に地域で活動される団体が認識している課題ということで搾り出しをしております。結果的にそれが地域活動における課題でもあるということを出しております。今のご質問いただいた情報のことですが、自治会などの団体に加入されている方には回覧板等で情報はいきますが、それ以外の方にはいかないという実態があります。今回のテーマの中でごみマナーというのがありましたが、ごみステーションというものは自治会に加入、未加入に限らず、いずれの方もご利用していただけます。ですが、やはり未加入の方のマナーが悪い傾向があるということで、そういう方々にもいろいろな情報を提供する必要があると検討会の中でも議論しました。それに辺り、いくつかの改善策のアプローチとしてチラシ配布などの改善策で成果が出てきたというところで、具体的な取り組みを行っています。モデル地区ですので、場合によっては上手くいかなかったこともあると思います。その上手くいかなかったことを含めて、モデル校区の実施期間終了後に検証し、それを改善するやり方を議論していけたらいいのではないかと考えています。併せて、自治会の役員の方の認識として、未加入</p>

	<p>の方々には忙しいから自治会に参加しないという認識だったのですが、未加入の方のアンケート結果から「自治会がどんな組織かわからない」「どうやって加入してよいかわからない」ということで、未加入の方と自治会の役員の方との認識のずれが明らかにでました。そういったところも検討会の中で提示しながら、ではどういった取り組みをしていけばいいのか議論して進めているところです。</p>
緒方委員	<p>今、地域の方など30名ほど検討会に入っていらっしゃっていて、校区が18校区あり、そのすべての校区で動いていらっしゃるのですか。中央区のようにいくつかの校区で、そこをモデルとしてすすめていらっしゃるのですか。アンケートの対象者2000人というのは18校区すべてから抽出されたのでしょうか。</p>
東区	<p>アンケートの2000人に関しては東区の18校区の住民の方を対象として行いました。地域課題検討会は18校区から各校区1名ずつの18名と区役所職員で構成しております。モデル地区につきましては5校区ありますが、先進的にすすめておりますのが2校区です。</p>
篠塚委員	<p>基本的な質問かもしれないですけども、資料の中で改善策一覧というのがありますが、この中から取り組めることを順に取り組んでいくという進め方でよろしいでしょうか。</p>
東区	<p>はい、そうですね。地域の特性に合わせて、検討会の中で話し合いをし、それぞれの課題あった改善策を試行したり、複数の改善策を組み合わせるなどです。現在、桜木では看板を設置するということが当初の目的だったのですが、自治会の加入者、未加入者に関わらず、チラシを配布したり等の周知を行うなど、最終的には看板設置に至る経緯の中で考えながら取り組んでいるところでございます。地域の実態に応じて考えて取り組んでいくようにしております。</p>
吉村委員	<p>簡単な質問だと思うのですが、24年度に課題を整理し、25年度に地域課題検討会が発会とのことですが、この検討会は1年で終わるといえるのでしょうか。そして、来年の動きはどのように展開していかれるのでしょうか。</p>
東区	<p>平成25年度に地域課題検討会を行いまして、二つのテーマに取り組んでおります。現在の26年度も残りの課題に取り組んでいるところです。よって25年度に検討会を設けまして改善策を作りました。そこで26年度にモデル地区で取り組んでおり、その一方で新たな課題の解決のための地域課題検討会をすすめております。来年度は今年度検討しました課題についてモデル地区を設け、取り組んでいくことになると思います。</p>
吉村委員	<p>ということは、課題を整理し、モデル地区を設定、実施するというサイクルで2年ごとに行っていくということでしょうか。この検討会は1年ごとにメンバーが代わられるのですか。それとも2年間続いているものですか。</p>
東区	<p>メンバーは毎年、それぞれ推薦いただいて代わっています。25年度に検討した2つのテーマを現在、モデル地区でやっております。今年度、残りの3つのうちの2つのテーマを検討して、来年度モデル地区で取り組んでいく予定です。モデル地区で取り組んだ後は、実施後の検証が必要になりますので、フィードバックを行い、良い場合は他の校区にも広げていきたいと考えております。いろいろ</p>

	<p>な補助のメニューもありますので、実施に必要な予算をつけて取り組んでいただきます。上手くいかない場合は、さらに検討を重ねることが必要だという形で進めていこうと思っています。</p>
田中副委員長	<p>先程の中央区でもありましたが、上手くいったことを広げていくのは大事だと思います。上手くいったことの発表会をするなど、検討会の方で宣伝されるかもしれませんが、毛利委員も仰られていたように、横の繋がりみたいなものが「東区民でよかった」という気持ちが醸成されていくことも一つ大事なことだと思います。吉村委員が仰りたいことは、そのあたりの横の背景をどう考えておられるかということではないかと思います。</p> <p>では、もう一方いかがでしょうか。</p>
毛利委員	<p>今回のこの事業はごみ出しのルールを皆さんに守ってもらうということが大きな目的の一つですが、ごみについては過去に熊本市もごみの減量化、再利用、ルール違反をチェックするための監視員を配置するなど、いろいろなことをやっていました。今回の18校区全体の会議の他に、モデル地区である6校区で会議を開催し、検討されたりしている様ですが、モデル地区の会議に参加される地域の方は主にどんな方々でしょうか。</p> <p>もちろん結果を出さないといけません、私は話し合うことが重要だと思います。話し合うことで問題を共有し、地域の方がごみ出しルールを守ろうと参画したり、話し合いに参加していない人、ルールを守っていない方々に声かけなどを行い、相談にのることが大事だと思います。そこで、校区で実施されている取り組みについてお聞かせください。</p>
東区	<p>モデル地区の会議に関しては、その校区の自治会の役員さんを対象としてお話しています。区役所からは、3名参加しています。例えば、ごみマナーが課題の場合は環境班、まちづくり推進課、まちづくり交流室から職員が同席しまして話し合いを行っています。</p>
毛利委員	<p>住民の方はどうですか。</p>
東区	<p>住民の方は参加されておらず、自治会の役員さんが主です。桜木校区や東町校区につきましては、校区の自治会の役員さんが出席されています。ここにはないのですが、他の校区では自治会より小さい組織である、隣保組の方も参加されていたりと、地域によって変わりますが、一住人の方は入っていません。</p>
毛利委員	<p>私が聞いたかったことは、地域の代表である自治会の役員さんや各種団体の代表の方に話をしていただくのは大事だと思うのですが、もう一つ進んで、例えばPTAとか保護者がいるグループなど、自治会の町内会長さんがきちんとされていればいいのですが、理解が十分出来ない町内会長さんもしらっしゃるので、私の経験からしても縦の線と横の線、出来れば斜めの切り口なども入れて行っていたと上手くいくような気がします。</p>
越地委員	<p>解答は結構ですので、時間はかからないと思います。</p> <p>「狭く深く」をキーワードにして欲しいと思います。今そちらで仰ったことは、</p>

	<p>非常に本質的な問題、逆に言うと地味な問題に真正面からぶつかろうとしておられます。つまり、「地域の課題は何ですか。」「人材育成ですよ。」「ネットワークですよ。」「ごみですよ。」など、どこの校区や区にも通用する本質的な問題に取り組もうとしています。先ほどの中央区のカルタというのはエンターテインメント性や娯楽色もありますから、非常にやりやすいと思います。東区がそういう大きな問題に立ち向かおうという姿勢は、まず評価したいと思います。そのときにどうしても相手が大きなテーマですから、表面をさすっていると、とりあえずやりましたということで何も見えてこない可能性があります。そこで「狭く深く」というのは、そんな意味です。例えば〇〇町内あるいは校区はごみに徹底してこだわってください。そこでこんな効果が出ましたということをはっきりと答えを見出してもらおう。一応やりましたけれどもと数をそろえても、相手が大きすぎるので空回りで終わってしまうと思います。モデル地区というのは町内単位でもいいかなと思います。校区より、さらに町内ですね。そこで目に見える形を作っていただくと、広がりやすくなるのではないかと思います。</p>
田中副委員長	<p>はい、ありがとうございました。それでは2区のヒアリングが終わったところで、委員長に引き継ぎたいと思います。</p>
明石委員長	<p>学内との業務の調整がつかせません、遅刻をしてしまいました。申し訳ございません。</p> <p>それでは引き続きヒアリングを進めさせていただきたいと思います。西区の「華ある歴史探訪ウォーキング」の取り組みについて、西区河内まちづくり交流室よりご説明をお願いいたします。</p>
西区	<p>※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて西区河内まちづくり交流室より説明。</p>
明石委員長	<p>はい、それではご説明いただきましたが、「華ある歴史探訪ウォーキング」の取り組みについて、委員の皆様からご質問、ご意見等ございましたら、よろしくご説明をお願いいたします。</p>
吉村委員	<p>では2点ほど質問させてください。とても盛り上がった大変素晴らしい企画だと思います。この中で苦勞されたことと、次回の企画案というのがありますが、今年度はなかったのですね。その次回の企画案についてお聞かせいただければと思います。</p>
西区	<p>私も企画が動き始めてから赴任してきたもので、前任の担当職員からかなり苦勞したということを知っております。本事業は、地元主体で開催していた行事で、いろんな事情があり一旦中止したもので、それを行政がもう一回やってくださいと、自治会のトップの方のところに納得してもらうために、何度も通われたようです。最終的には「せつかく行政の方が後押ししてくれて、河内もPRできるのだからとやろう」ということで、本事業が動き始めたという聞いております。</p> <p>次回の企画案ですが、本年度は予算等の関係もあり、残念ながらウォークラリー自体は開催しておりません。ですが、春先の「ほたる祭り」に合わせて、芳野方面を少し歩いてもらうというウォーキングという企画を催しました。懇話会で</p>

	<p>来年度の事業を決める時期が来ております。その中のトップの方が、ウォークラリーを是非やりたいと思われているようです。ですので、来年度の事業で場所は変えて実施されるかと思えます。</p>
遊佐委員	<p>一つお尋ねしたいのですが、こちら新聞記事の中に親子連れなど地方からいらした約360人が参加とありますが、地元の方の参加率とそれ以外の方々の比率としてはどれくらいだったのでしょうか。</p>
西区	<p>地元の方はほとんどいらっしゃいません。もう歩きなれていらっしゃるの、ほとんどが旧市外の方です。一番遠くは山鹿の方がいらっしゃいました。</p>
遊佐委員	<p>今後も他の土地の方々を対象に、こういう形でと考えていらっしゃるのでしょうか。</p>
西区	<p>基本的には河内外の方を呼び込んで、河内はもとより、西区の自然等を紹介したいと考えております。先月は河内の海に市内の親子連れを募集しまして、貝掘りなどしていただきました。</p>
田中副委員長	<p>吉村委員の話にすごく近いのですが、本当はなぜ開催できなくなったのかという理由も知りたいですけれども、なかなか語れないことも多いと思いますので、なぜ復活できたのかということをお教えいただきたいです。この場は「区になってよかった」ということを結論として出したいと思うのです。先ほど、越地委員も仰っていましたが、以前は全市的にしなければならなかったという課題について、「小さくできるから面白く出来る」や「直接自分たちのやる気に繋がる」ようなことを見出せると、良い会になると思っています。そのあたりも踏まえて、もしよかったらなぜ中止になったのか、なぜ復活できたのか教えてください。</p>
西区	<p>以前は「オレンジウォーク」という名称で、河内町の体育協会が主体となって行っていたと聞いております。飽託4町が合併する前に、かなりの回数で定着していたようです。2009年に、みかんの収穫時期と重なること、人手の減少、また、このようなご時勢ですので協賛金の方もなかなか集まりにくくなったために、一旦、中止しようとなったという経緯があると聞いております。復活できた理由は、自治協議会の会長さんのお力が大きかったのではないかと思います。自治協議会の会長を長年されており、地元にも信頼の厚い方で、市の職員をされていた方なのですが、せっかく市の方が補助金を出すということだから、もう一回河内町をPRしようとかかなり呼びかけていただいたと聞いております。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。まちづくりではよくある話で、リーダーが大事だと思うのですが、私は本当にそうなのかなという思いもあります。きっと去年やってみてよかったと思う、でも一旦止めた理由もある訳ですよ。当然、委員の方に過度に負担がかかっているとか、主催者の年齢も高くなってきて運営が負担などあると思うのですが、去年開催したことで、今年また開催したいという気運が上がってきたところと結びつけて考えると、ただ単にお金があったからできたということではもったいないと思います。なので、成功できた理由をもう一度、区役所と地元の方で検討し、そうすると派手じゃなくても「やってよかった」に結びつく学びのループになるといいなと思いお話ししました。</p>

毎熊委員	<p>人や地域などいい環境があったから、こういう風に盛り上がったと思いますが、西区の他の地域でも好材料の環境があるところで、こういった事業に取り組みますと西区が発展し、違う魅力を発見できるという取り組みにもなるのではないかとと思うのです。そういった検討ということはなされていますでしょうか。</p>
西区	<p>申し訳ありませんが、全体的な対応については私個人では把握していません。</p>
安永委員	<p>少し細かい質問ですが、実行委員にいろいろな会の方が加わっていらっしゃるようですが、年齢層など、どういった方々がいらっしゃるのでしょうか。もう一つ、実行委員会ではどういった話を、どんな感じで話されているのでしょうか。</p>
西区	<p>実行委員会のメンバーの方が全員で33名いらっしゃいます。主に自治会の代表者、青少年育成協議会、体育協議会、PTA、消防団員や交通安全の指導員さん、存在する団体の代表の方にほとんど入っていただいております。</p> <p>こうしたい、ああしたいなど、忌憚なく話をさせていただき、特に体育協会の方は経験がございますので、遠慮なく話を進めさせていただきました。最終的には、それを事務局で取りまとめて委員会に諮るという形で進んでいきました。</p>
毛利委員	<p>先ほど他の校区の取り組み、或いは他の地域の計画はまだ把握されていないところがあると仰ってましたが、せっかくいい試みをされたので良かった点、反省点を含めて、西区のいろんな地域でこのような形で取り組んでいけるとと思います。</p> <p>それから蛍の話がありましたが、西区は本当にあちこちに蛍がたくさん生息していて、それを見学する会もありますので、そういうのも新たにプラスしていくといいのかなと思います。</p>
明石委員長	<p>はい、他はよろしいでしょうか。それでは他にはないようですので、先に進めさせていただきます。</p> <p>それでは、次が南区の「南区シンボルマーク作成」の取り組みについて、南区総務企画課からご説明よろしくお願いたします。</p>
南区	<p>※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて南区総務企画課より説明。</p>
明石委員長	<p>はい、ありがとうございます。それでは、南区シンボルマーク作成の取り組みについて、委員の皆様からご質問・ご意見をいただきたいと思います。</p>
田中副委員長	<p>半分関わっているので非常に質問しづらいのですが、私が考えたことと色々違うこともあったり、さらに良くなっていることもあって、改めて聞くと非常に面白かったです。面白かったというより、自分がやったことも半分入っていますので良かったです。</p> <p>まず、あまり前例の無いことをやったと思うので、色々問い合わせがあったと思います。その中でどういう問い合わせが多くあって、それに対してどう答えられたのか、そして、それを通してこの事業の広がり方の実感を、感想で結構ですので教えていただければと思います。</p>

南区	<p>問い合わせは正直そこまで多くはなかったというのが実感です。</p> <p>ご質問2点目の、事業の広がりについての実感です。南区だけ特殊なやり方をさせていただきました。実際にワークショップを開いてシンボルマークをみんなで考えもらおうということで、その時小さいお子様からお父さんお母さんとみんなで一緒に考えて話し合いながら作っているといった様子が、非常に心温まるものがありました。</p> <p>審査会には最初のワークショップに参加いただいた方に多く来ていただきまして、引き続き夏休み期間中、自分たちだけではなくご家族みんなで考えてくれたものだと実感しました。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。説明の中にもありましたが、6歳から68歳まで応募があったということですが、そういったことが市役所の成果として出るようになったことが、私は新しいことではないかと思えます。先ほどの説明にもありましたが、今までは「参加者が何人」という数だけが、その成果に対する評価でしたが、そうではなくて「心温まるものがあった」とか、そういうことが成果として語られるようになるような事業評価ができるようになるのではないかと思います。</p> <p>非常にやりにくかったと思えますし、無理難題を申しつけたことは反省しているのですが、これらをやったことによって分かった新しい情報伝達の仕方とか、そういったことが記録として残ることが大事なかなと思えます。他の区でも似たような事業をやりたいときに、「南区に行けばそういうデータがあったよ。」とかそういうノウハウが伝わるといいなと個人的には思っています。</p>
吉村委員	<p>感想としては、区としてこうやってみんなが参画して進められているというのはすごく楽しかったらうなと思えます。</p> <p>質問です。よくわからなかったのですが、行事としては2回あったということですね？7月14日と9月8日と2回、説明会と選考会があったということですね。そして85名134点の応募があったというのは、この説明会に参加された方からの応募ということなののでしょうか？</p>
南区	<p>シンボルマークの募集自体は、7月中旬から8月下旬の夏休み期間を対象として募集しましたが、募集の前の段階としてシンボルマークとは何なのかという説明会を行うワークショップを開催いたしました。その後夏休み期間中に作品を募集したのですが、応募のあった作品は説明会に参加された方の応募もありましたし、参加されていない方の応募もありました。</p>
吉村委員	<p>参加された方からが、応募が多かったのですか。それとも、あまり関係なかったのでしょうか。</p>
南区	<p>どちらかというに参加されていない方のほうが多かったですね。</p>
吉村委員	<p>認知・周知という意味でもワークショップという位置づけなのでしょうね。そして、このワークショップに参加された方がこの認定証（南区資料⑧）を貰われたということですね。それでこの認定証を貰った方が審査員をするわけですか。</p>

南区	審査は9月に行われた選考会で、会場に応募のあった134点をずらっと並べ、その中から一人3枚付箋を持って、いいなと思ったものを3つ選んで貼っていくという方法で、付箋の多かった上位5つの中から最終的に挙手制で1点だけ選びました。
吉村委員	当日にシンボルマークを持ってきてもいいということがどこかにあったと思うのですが、この認定証を7月に貰われた方がそのポイントである3枚の付箋を持っているということですか？
南区	認定証は7月の説明会に参加された方に当日配布したものです。
吉村委員	では選考会の審査員はどなたが？
南区	審査員は来場者全員が審査員になりました。
吉村委員	なるほど、では認定証を貰った方だけが審査員をされたということではないのですね。わかりました。ワークショップがあつて、応募が85名134点あったのですね。
明石委員長	他にご質問・ご意見は。
篠塚委員	対象者の興味関心を引くための工夫のところ、管内の28小中学校を直接訪問して事業の趣旨説明を行ったということですが、その時の小中学校での反応はどうだったのでしょうか？
南区	実際に小中学校を訪問して説明したのは学校長が中心でした。 7月14日にシンボルマークを作ろうという最初のワークショップを開催しておりましたが、こちらとしても行き届かない部分があったり、お願いに出向いた時期が少し遅かった部分がありました。学校としてももちろん協力するということがあったのですが「もう少し早い段階で色んな周知ができればよかったですね。」というご意見を伺っております。
篠塚委員	ありがとうございます。もし先ほどの中央区のような校区の取り組みができていたら、もっと応募も多かったのかなと思いましたが、そうすると時間もかかってしまいますし、68歳など高い年齢層の応募はなかったのかなとも思いました。
明石委員長	他はよろしいでしょうか。それでは最後になりますが、北区のいきいき交流スポーツ大会の取り組みについて、北区福祉課よりご説明をお願いいたします。
北区	※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて北区福祉課より説明。
明石委員長	ありがとうございます。それでは皆様方、ご質問・ご意見等ございましたらよろしくお願ひ致します。
遊佐委員	教えて頂きたいことが2点ございます。 1点目は、今回65歳以上の高齢者を中心ということで考えられていますが、この北区の4地域において、65歳以上の高齢者の割合はどれくらいなのでしょう。高齢者を中心に考えられたということは多いと思うのですが。

北区	北区ではだいたい20%を超えています。一部19%台というところがありますが、植木の校区では30%を超えているところもあります。
遊佐委員	もう一つ伺いたいのは、今回の500名の参加というのはスポーツイベントとしてはすごく多い人数だと思うのですが、今回の手ごたえを感じられて、今後こういうイベントを続けていくことをお考えでしょうか。
北区	今年につきましてもスポーツ大会を予定しております。去年がグランドゴルフとアジャタバスケットの2種目だったのですが、今年はその2種目にビーチバレーボールとパークゴルフを取り入れまして、合計4種目で実施したいと考えています。これによりますます参加者が増えるのではないかと考えております。
明石委員長	他よろしいでしょうか。
吉村委員	資料2の裏のアジャタのところの「チーム編成」の一般の部が消されていますが、これは途中で何かあって消されたのか、それとも最初から消されたのでしょうか。 また、グランドゴルフの参加が40チーム、アジャタバスケッが7チームで圧倒的にグランドゴルフの方が多のですが、少ないチームは少ないチームで十分充実した大会だったと思います。しかし、こういった地域の行事がある時に子ども会やPTAの方が「どなたか参加して下さい」と地域を回っていて、特に子どもが集めて回るというのが体感的にあるのですが、町内大会でも子どもや30・40代の方たちは、非常に億劫で「恥ずかしいから」「体力がないから」「子どもの部活があるから」ということで、なかなかこのあたりの人集めというのは難しいのかなと思うのです。そこはどのような感じだったのかということについて、率直な意見をお聞きできたらと思います。
北区	まず1点目のチーム編成のところ一般の部が消されているというところですが、実際は一般の部の方もアジャタバスケッに参加されて競技を行っております。なぜ消されているかといいますと、一般の部につきましては、いきいき交流スポーツ大会の予算とは別に北区体育協会の行事として、そちらの予算を使って開催したということがありまして、この要綱では外しています。 それから、子どもの参加を促すためにということですが、北区に限らないとは思いますが、体育協会が各スポーツ団体や協会、自治会、子ども会などに対して、日頃からスポーツ大会の開催に色々関わっておられるので、体育協会を通すことによって子ども会にスムーズに繋がり、そこから参加者を募ることができました。
明石委員長	ほか、ご質問ご意見よろしいでしょうか。
毛利委員	北区は4地域があると書いてありますが、小学校の校区はいくつぐらいありますか。
北区	20か21校区だったと思います。

毛利 委員	<p>先ほどの参加者のところで、高齢者、子ども、女性、成人と色んな年代がありますが、高齢者、子どもを見ると、子どもの参加が少ないのではないかと思います。小学校区が20校区ほどあれば、もう少し参加の呼びかけでうまい方法ができたのではないかと思います。</p>
明石 委員長	<p>他はよろしいでしょうか。</p> <p>最後に、これまで5つの事業についてのご説明、そして皆様からのご質問・ご意見をいただいてきたところですが、それらを踏まえた上で全体を通してのご意見ご感想をお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>担当者の方も説明漏れで追加説明をしたいということがありましたら、ご意見をいただければと思います。ただ残り時間も限られておりますので、効率化を図るため、お一人ずつ順番に全体の感想を仰っていただければと思います。</p> <p>それでは、毛利委員から5つの事業の説明とヒアリングを踏まえた上で、ご意見ご感想をよろしくお願い致します。</p>
毛利 委員	<p>今日はありがとうございました。各区で大変工夫をされて事業展開されていることに、とてもありがたいと思っております。</p> <p>校区の一体感や住民の参画、これは先ほども申し上げましたが、事業を行う途中経緯というのが大変重要で、それをやっていく中で一体感が生まれるし、校区の共有と問題点も浮かび上がってくるような気がします。</p> <p>先ほどの南区のシンボルマークの事業は、募集期間や募集内容の期間が少し短かったような気がしますが、こういう取り組みを区民の皆さんと一緒にやるということが大変大事だと思います。</p> <p>こういう事業を私たちも知ることができて、今日は良かったと思います。ありがとうございました。</p>
安永 委員	<p>今日はありがとうございました。</p> <p>斬新な活動もあったり、地域の人たちのことを綿密に考えた活動だったりして、すごくみなさんが熱心にやられているなと思いました。</p> <p>東区の活動は特に、住んでいる人だからこそわかることもあって、さらに活動が広まっていけたらなと思いました。</p> <p>また、中央区の方達のかるたづくりは、行政の中でも膨らみがあったり協力が広まったりで、区民の人達も楽しく作成することができるという、協働という面ですごく効果を出しているなと思いました。</p> <p>今日はありがとうございました。</p>
遊佐 委員	<p>今日は各区のみなさまお忙しい中ありがとうございました。</p> <p>本当にみなさん色々工夫されていて、地域の方々にその区その区を自分の区だと認めてほしい、ということがひしひしと感じられました。</p> <p>これからもいろいろな形で地域の方々と関わっていただきたいなと思いました。よろしくお願い致します。</p>
吉村 委員	<p>お世話になりました。</p> <p>それぞれに質問させていただいたので特に何もありませんが、本当に職員の方</p>

	<p>お一人お一人が、それぞれ学校や地域に出向いて一生懸命取り組んでいらっしゃるということがよくわかりまして、熊本の市民でよかったなとしみじみ思いながら聞いておりました。</p> <p>今後どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。</p>
毎熊委員	<p>今日はありがとうございました。とても区独特の取り組みでいいなと思いました。</p> <p>ただ、やはりまだ「完成はしていない」「年数のかかるものなのだ」と思いましたので、1年2年で完成させようと思わずに、区民に浸透していくまでこの事業を続けていってほしいなというのが率直な意見です。</p> <p>やはり数を追ったらいけないのかもしれませんが、どうしても区の数に対して参加されている方が少ない。どれくらい周知されているのか、ということも含めてもう少し頑張ってください、年数をかけてもやっていただきたいと思いました。</p>
篠塚委員	<p>本日はありがとうございました。</p> <p>各区の方々が、より住民の方が住みやすく、また愛情を持ってその区で暮らしていけるように取り組んでおられることが、とてもよくわかりました。</p> <p>また、お話の中で住民の方がいきいきと活動に参加している様子がイメージできて、私も楽しく聞かせていただきました。どうもありがとうございました。</p>
越地委員	<p>最初に思ったのは、今日各区が持ち寄られたテーマは、よく考えてバランスを取られたなということです。偶然なのか意識して選ばれたのか、そういう点では非常に多彩な切り口があった、という点が一つです。その中で、今日のテーマ「市民参画と協働のための情報共有」ということですので、そこに視点を置いて早口で一言、一区ずつ言います。</p> <p>まず中央区ですが、ここはかるたという非常にわかりやすいテーマで、子どもたちに働きかけると、まず子どもは来るでしょうね。楽しんで遊ぶでしょう。ただ一般の人をどうやって集めるか。やはり区の発見は高齢者が見ると子どもが見るのは全然かるたも違ってくるでしょう。そのためには俳句のポストのような物をあちこちに置いておくなど、そういうことを広く市民情報として浸透させる意味ではいいのかなと思います。</p> <p>次は東区です。これは先ほども言いました。テーマが非常に本質的な大きなものなので、先ほどは「深く狭く」と言いましたが、言い換えれば「一点突破」というところで臨み、目に見える成果を出して欲しい。</p> <p>それから西区です。西区の特色は、地元を他の地域にいかにかに発信するかという点で興味を覚えました。参加者は地元の人ではない、これはこれで一つのやり方ではあるのです。ただその視点に立てば、どうやって区外の人に発信するかという視点のものと、区の人にそれをどう浸透させ理解させるかという二つの情報発信のやり方がないと、「外にはばっちり伝わるけど地元の人知りません」という問題が起こりかねないかなと思います。</p> <p>そして南区です。南区はワークショップという手法に新鮮さを感じました。よ</p>

	<p>くチラシを作って各種団体で説明をして、ということをやっていますが、なかなかそれではわかりません。そこでワークショップです。ワークショップという言葉は、私たちはよく使いますが、一般の人には「ワークショップって何？」という声が多いのです。実際にワークショップに参加することで、「こうやって自分たちで作っていくのだな」ということが分かっていく。そして投票も専門家だけじゃなくて参加者が一人3ポイントで行って、自分たちで決めていくという手法は他にも応用が効くのではないかと思います。このシンボルマークづくりだけではなく、色んな校区のことをやっていくときにワークショップという手法が使えるかとおもいました。南区はワークショップが好きである、というイメージを作ってもらえればと思います。</p> <p>北区です。北区は、私は教訓的に受け止めました。それは、区ができてこれまでたくさんあった校区が集まってきてこれら校区の一体化を図っていくとき、その手法の一つとして、各種団体というのは各校区に16から17団体ずつ必ずあるのですが、今回は体協という組織を活用して横に情報を繋げていかれた。これは情報伝達としては速いと思います。もちろん全体を繋ぐというのは大事ですがそれが大変な時は、各校区にある体協のような一つの組織を使って情報の共有と発信を行う。これは非常にわかりやすい手法です。以上です。</p>
<p>緒方 委員</p>	<p>本当に各区の方々の取り組む姿勢が素晴らしいなと思いました。</p> <p>今回どこかがお書きだったのですが、区になったことで行政の方が住民の方と密接に関われる機会がとて多くなったと思います。ですからこのようにそれぞれのことで、細やかな対応ができるようになった。特に東区がされた事業はゴミ問題にしる、人材育成にしる、最大のネックであると思います。ですからまずは職員の方々がわくわく・いきいきとして、仕事が楽しいと思っていただかないと継続できないかなと思います。大変でやっているということではダメではないかなと、しみじみ思いました。</p> <p>そしてやはり市が絶対、校区がいきいきとやっていく予算を少なくせず、どんなトップが来ようともちゃんと予算を付ける。そして地域を興していくこの一つの今の取り組みが継続できるようにしていただきたいと、切に願った次第です。どうも本当に今日はありがとうございました。</p>
<p>田中副 委員長</p>	<p>本当にみなさんお忙しい中こういう機会をいただいて、ありがとうございました。はっきりいって行政の方にとっては負担というか、わざわざこういう所に出てきて話すのはさぞかし億劫だったと思いますが、僕たちは勉強になりました。それぞれの方が行政のプロなわけですから、それぞれが学びあうような場を、区を超えて作っていくのが区制になったメリットなのかなと思いますので、そういうのができていくと自治推進委員会という場でなくても、いいのではないかと思います。大学ではこういったことをやっていて、FD（ファカルティー・ディベロップメント）といいます（Faculty Development：大学教員の能力・技能等の向上を目的とする組織的な取組み・活動）。自分たちがやっていることはもちろんいいのですが、他をみるともっと良くなる可能性がある。やっぱり下を見てい</p>

	<p>ても仕方がないので上を向いて、もっと良くなるという可能性を信じてやっていただけたらいいのではないかと思います。</p> <p>最初に平田さんが、楽しかったということをおっしゃっていたのがすごく大きいなと思います。やはり色んなところで行政の方がやらされている感があると、学生は結構そういうのを見ていて、やらされている感があるところには「この人たち大変なんだろうな」とか「土日におざわざワークショップなんて」となり、やりたくなくなります。そうならないためにもやっぱりみなさんが楽しいことをやる。そうすると住民も楽しくなる。西区の守田さんも仰ってましたけど、1回やるのが決まったらとことんやることができるというのが熊本の特色ではないかなと思います。みんなが楽しくやるためにはまず行政の方が楽しくやる。本当は大変だったとしても頑張るってやるというのが大事かなと思います。</p> <p>最後ですが、往々にしてそういうことすると仕事が増えてしまうのですが、それをなるべく減らすために、誰かと一緒にやるというのがいいのではないかと思います。行政の方とでもいいですし、例えば保健子ども課と総務企画課と一緒にやるとか、まちづくり推進課と福祉課と一緒にやるとか、そういうことをもっとやっていくと一つで二度おいしいという結果が生まれます。そういう風な情報の作り方も大事なかなということをおもいました。以上です。</p>
<p>明石 委員長</p>	<p>みなさまどうもありがとうございました。</p> <p>他、最後の最後ですが、何か言い残したこととかぜひこれは言っておきたいということがありましたら、お願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>担当者のほうからも特に追加でお話しいただくようなことはないでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それではお疲れさまでした。ありがとうございます。</p> <p>特に今日は遅刻をしてしまいまして、本当に申し訳ありませんでした。</p> <p>途中から参加させていただいて全体をお聞かせいただいたわけですが、それぞれ5つの区で工夫をされているなと思いました。同じようなのが出るのが普通なのですが、皆様それぞれ工夫をされていると感じました。それは非常に努力をされているところかなと思います。私もワークショップのファシリテーターは20年ぐらい経験がありますが、委員の皆様あるいは田中副委員長も仰っていたように、結局楽しくないと続かないのです。だから参加しているほうも楽しくないとダメだし、ファシリテーター自身がやらされている状態では全然理解もなにも進みません。実際のツールとしてのワークショップの使い方とかにも工夫も凝らして行って、仲良く続けることに意味があるのかなと思います。ともかく、先ほど申し上げましたが、5つの区がそれぞれの特性に合わせた形で最も相応しいようなものを試行錯誤しながら、工夫をされていることが非常にいいことだと思います。</p> <p>ただ、一つの区に固まってしまうのではなく、田中副委員長も仰ったように、やはり同じ市ですら横の情報交換はどんどんしていただいて、例えばワークショップ、かるたなど、ツールとして使えるものはどんどん横に広げていくような、</p>

	<p>そういう工夫もしていただければいいのかなと思います。特に行政が行うまちづくりで、規制と誘導という言葉がありますが、「してはいけないよ」と規制するのは比較的簡単です。これは条例とか規則で禁止事項を決めて違反者に対しては罰則を適用します、ということをやれば形はすぐ見えるので、実効性があるかは別にして比較的簡単です。しかし、人に自発的に参加参画してもらう、そういう気持ちにさせるのは実はとんでもなく難しいです。だから行政職員は、そういった規制をするようなブレーキと、補助金や助成など様々な支援措置などのいわばアクセル、この2つを使って地域の課題を市民の皆様と一緒に解決していくということが、大事な仕事です。しかし特に今回のこの皆様が取り組んでおられる仕事というのは一番難しい、市民の皆様方に参画をしてもらい、一緒にやろうということです。やはり目の前にあるそういう料理を食べてもらわないことには味も何もわからないわけですが、そこまで持っていくのが非常に大変です。そのあたりこれからも皆様大変ご苦勞があると思いますが、市民の側から見ても一番期待をしたい部分の仕事であろうかと思しますので、ぜひそのあたりよろしく願います。特に今回の各区の取り組みというのは、政令指定都市となって区制を敷き、しかも新たに熊本市民となられた合併町の皆様も新たに熊本市民・区民としての意識を形づくっていくという非常に大事な役割・仕事を担っています。そういう意味で、最前線で市民と一番近いところで日々接触をされる区の皆様の働きにより、委員の皆様も仰ったように、熊本市の市民・区民でよかったと、言っていただけようになります。そういう形をつくるには、やはり区民の支持を集めて区民と協働の実をあげながら区の職員さんが頑張っていくしかありません。大変ではありますが、今後ともこのような事業のさらなる推進に取り組んでいただければと思います。</p> <p>とりあえず以上、なんとなくまとめのような話をさせていただきましたが、本当に今日はありがとうございました。</p> <p>それでは委員の皆様方、担当課の皆様よろしいでしょうか。他になれば本日のまちづくり推進事業についての事例検証を終わらせていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、本日のヒアリングをもとに検証評価シートを作成していただくこととなりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>それから、次回の開催の日程です。今日は区の事例のヒアリングをさせていただいたわけですが、次回の第4回は全市的な市の取り組みの事例について検証を行います。先ほども申し上げましたが、熊本市が政令市となって5つの区ができましたが、やはり市としての一体性・整合性のある行政施策の展開が大事ですので、区の事業と市全体の事業との絶妙なコンビネーションがあってこそ、熊本市の施策が前に進むと思います。このあたりのお話も皆様方から色々お尋ねいただければと思います。</p> <p>それでは開催日程につきまして、事務局からご説明をよろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>※資料3「自治推進委員会の検証スケジュール」により事務局説明 日程ですが、次回第4回の会議を11月14日金曜日午前9時半から、続きま</p>

	<p>して第5回は2月16日月曜日午後3時からということで開催させていただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜ 委 員 了 承 ＞</p> <p>開催場所につきましては後日、文書にてご連絡したいと思います。資料等につきましても事前に委員のお手元に届くようにご用意したいと存じますので、よろしくをお願いします。</p> <p>また、先ほどからお願いしております、ご提出いただく検証評価シートですが、様式のデータを改めて各委員の皆様にお送りしたいと存じます。提出の期限は、お忙しい所恐縮ですが今月中（H26.10.31）にさせていただければと存じます。記載にあたりましてご不明な点があればお気軽に担当の方にお申し付けいただきたいと思いますので、重ねてよろしくお願い致します。</p> <p>最後になりましたが、本日は5つの事業を検証していただくというタイトなスケジュールでしたが、概ね予定通りで締めさせていただくことができました。ご協力いただきました委員の皆様また、各区の職員の皆様に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。事務局からは以上でございます。</p>
<p>明 石 委員長</p>	<p>他に特になければこれで予定をさせていただいておりました議事は全て終了でございます。</p> <p>それではこれを持ちまして本日の委員会を終了させていただきます。どうもご協力ありがとうございました。</p>